

地域防災力としての消防団の在り方と町の責務

団員の負担軽減を図りながら団員確保に努める

問 全国的に消防団員不足が深刻になっているが、阿久比町も例外ではなく、令和5年4月1日には第4分団の団員が0人となり、分団としての活動ができなくなった。消防団の分団再編も含め検討されているようだが、地域防災力としての消防団の在り方と町の責務について考え、災害時、消防団が有効に活動でき、阿久比町の減災に貢献できる体制作りをすることが重要である。

答 消防団は地域防災力の中核とされている。本町の考える地域防災力の中核とはどういうことか。

答 地域の実情を熟知し、専門的な知識・技能を有する消防団は、地域のつなぎ役としても重要な役割を担っており、地域防災力の中核であると考えている。

問 団員確保に向けた阿久比町が行ってきた取り組み内容と評価。

答 広報あぐい、ホームページ、各種イベント等で団員募集の広報活動を実施しているが、団員数は年々減少している。

問 消防団の条例定数の考え方。

答 火災鎮圧・予防などの業務の遂行に必要な団員数で、現状の団員数の状況を踏まえ、一定の増員ができる定員としている。

問 現役消防団員の消防団離れを防ぐため、行事等どんな見直しを考え、いつ頃結論を出すのか。

答 式典等の統合、簡素化など消防団と協議しながら見直していく。令和6年2月に、来年度に実施する行事を決定する。

問 機能別消防団員・分団とはどんな制度で、本町には何人の団員がいるのか。



たけうち たくみ 議員
竹内 卓美 (新進会)

答 特定の活動、役割のみに参加する消防団員のこと、本町には11人中、隣接市町・参集時間等を考慮して、例外規定を設け団員活動を継続してもらうことはどう考えるか。

問 現役消防団員の退団理由に、就職、結婚等で阿久比町を離れ、団員資格を失う場合もある。新入団員確保が難しい。

答 団員資格は条例で定めている。国の考え方や近接の範囲の線引きの難しさから、例外規定を

設けることは難しい。国の動向や方針を注視しながら検討していく。

問 消防団員の休団制度活用が通知されている。多様な団員を確保する意味でも休団制度は必要と考えるが見解は。

答 家庭の都合等による退団や再入団は認められている。休団制度の導入は団員の意見を聞きながら検討していく。

問 外国籍の方の消防団入団は課題も多い。最大の課題は、公権力の行使。消防団員の行使する公権力を説明し、外国の方の入団についての見解は。

答 消防団員が公権力を行使する活動は、
・ 消火活動
・ 延焼防止のための家屋の破壊
・ 消防車両の運転など
公権力を行使しない活動を前提に、他の入団条件と合わせて検討する。